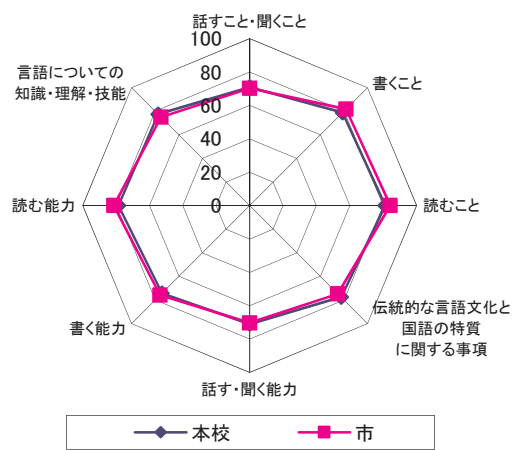


宇都宮市立横川西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	71.0	70.3	68.2
	書くこと	78.8	81.7	80.6
	読むこと	81.2	84.3	84.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.6	74.7	72.7
観点別	話す・聞く能力	71.0	70.3	68.2
	書く能力	74.2	76.0	74.1
	読む能力	78.6	81.3	81.1
	言語についての知識・理解・技能	77.5	74.9	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

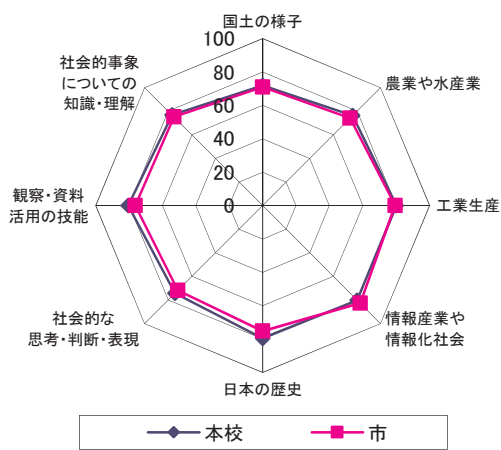
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を上回った。 ○話合いの内容を、話し手の意図を考えながら聞いたり、話し方の工夫を考えたりしながら聞くことができていた。 ●司会の役割を理解し、話合いからそれたときに正すことができなかった。	・朝の会などのスピーチや、会話科ことばの時間の学習などで、話し手の意図を考えながら聞いたり、自分の伝えたいことを効果的に話したりすることを意識させ、聞く力を高める。 ・授業の中で、グループ活動を取り入れ、学び合いや話合いの機会を意図的に作る。話合いのルールや形式を理解させ実践できるようにさせ、司会を中心にスムーズに話合いに取り組めるようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均を下回った。 ○グラフから読み取った事実を書くことができた。 ●指定された長さや段落の数で文章に表すことができなかった。また、グラフから読み取った事実をもとに自分の意見を書くことができなかった。	・作文を書く機会を作り、与えられたテーマについて書いたり、相手や目的など指示された条件で書いたりするなどの活動を取り入れる。書くことの学習活動では、自分の考えを効果的に伝えられるような文章構成や言葉の使い方の工夫をさせる。
読むこと	平均正答率は市の平均とほぼ同じである。 ○説明文の段落相互の関係から内容を読み取ることはできた。 ●物語文において、場面の描写を読み取ることはできなかった。	・授業の中での登場人物の心情や場面の描写などの読み取りを丁寧に取り組むと共に、読み取った内容をノートで視覚化して人物関係や場面のつながりを整理することができるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は市の平均を上回った。 ○漢字の読み書きや文の構成についてはよくできた。 ●同音異字を正しい文章で使うことや国語辞典で言葉を調べることができなかった。	・漢字の読み書きについては、6年生だけでなく5年生までの漢字についても折に触れて練習をさせたり、ミニテストなどを行ったりして、復習を継続していく。 ・国語辞典の使い方については、单元ごとに言葉の意味調べの時間を設け、国語辞典を日常的に使えるようにしていく。また、同音異字については漢字がもつ意味を取り上げ、音だけではなく漢字の意味についても興味をもてるようにする。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	71.9	71.0	69.4
	農業や水産業	76.2	74.0	69.0
	工業生産	80.1	79.4	75.4
	情報産業や情報化社会	80.1	82.8	88.7
	日本の歴史	79.5	75.2	72.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	74.1	71.9	67.2
	観察・資料活用の技能	80.5	76.3	70.7
	社会的事象についての知識・理解	76.8	75.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

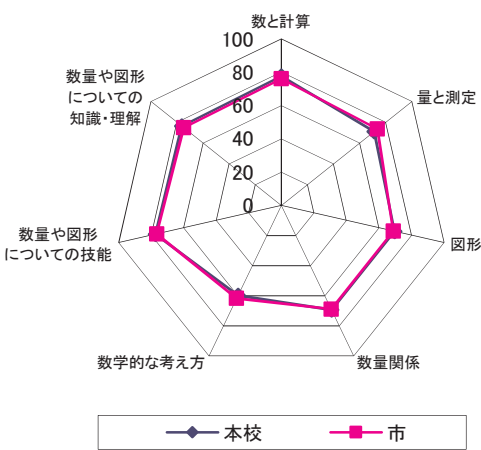
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率はほぼ市の平均と同程度である。 ○日本の国土について、周辺の海洋名を正しく理解している。 ●日本の周辺の国の国旗について、正答率が市平均よりも8ポイント低い。日本の周囲の国々について、国名やその国旗を十分に理解できていない。	○該当学年での学習後にも、国土の位置や周辺の様子について、関連のある内容を扱う際には、繰り返し触れることによって知識の定着を図る。 ●話題にのぼったり、ニュースで見聞きした地名や国名について、日頃から地図帳を活用して調べる活動を取り入れ、日本の周辺の海洋や国々を意識させる。
農業や水産業	平均正答率は市の平均を2ポイント上回っている。 ○稲作の工夫や努力について、資料を読み取ることができている。また、「しろかき」などの稲作の作業内容をよく理解している。 ●日本の食料自給率を上げるための方策について、正答率は市の平均を4ポイント上回っているものの、53.0%と低い。複数の資料を関連させながら読み取ることができていない。	●提示された複数の資料について、それぞれどんなことを示しているのか、関連することは何か、どのような問題点が明らかになるかなど、具体的に観点を示しながら読み取る活動を行なっていく。
工業生産	平均正答率はほぼ市の平均と同程度である。 ○工業生産に従事している人々が、環境保全に取り組んでいることを、資料からよく読み取っている。「リサイクル」「ハイブリッドカー」などの用語が、環境保全のための手立てであることをよく理解している。	●学習の中で扱った語句がもつ意味やその目的については、授業の中で明確にし、確実に理解させる。また、学習のまとめの段階で、示された語句を使って短文に表したり、ノートに自分の言葉でまとめを記入させるなどして、活用する力を付けていく。
情報産業や情報化社会	平均正答率は、市の平均を2ポイント下回っている。 ○テレビやラジオ、新聞などの情報手段の特徴についての設問は、正答率が96%を越えており、大変よく理解している。 ●医療現場に情報ネットワークが活用されることによるサービスの向上についての設問では、正答率が市の平均を8ポイント下回っており、理解がされていない。	●身近な情報メディアの特徴をふまえた上で、生活の中での情報モラルの理解や適切な活用方法についても、他教科との関連の中で指導していく。 ●情報ネットワークなど児童にとって身近ではない事象については、具体的な事例を示すなどして理解をさせていく。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均を4ポイント上回っている。 ○鎌倉時代、室町時代、江戸時代など武士が政治の中心だった時代について、政治の施策や文化の特徴をよく理解している。 ●「十七条の憲法」の目的や、古墳が示す王や豪族の力について問う設問の正答率が市の平均を3～4ポイント下回っている。	●各時代ごとの主なできごとや文化の特徴について、年表を活用したり、特徴的なエピソードから新聞にまとめたりして、理解を深めさせる。 ●歴史的事象の名称の理解にとどまらず、前後のできごととの関連や事象から分かる事柄についても考えさせる活動を行なう。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.5	76.1	73.5
	量と測定	71.1	73.6	70.1
	図形	69.6	68.8	66.6
	数量関係	69.4	68.9	64.5
観点別	数学的な考え方	59.8	61.8	54.9
	数量や図形についての技能	77.4	76.7	73.2
	数量や図形についての知識・理解	76.3	75.0	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

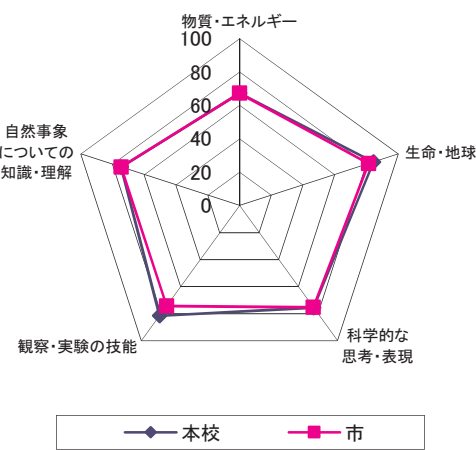
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均をやや上回っている。 ○分数と小数を含む計算問題については、市の平均を上回ってできている。授業をはじめ、宿題や朝の学習等を活用して、計算の繰り返し練習を継続した成果であると考えられる。 ●分数と小数のわり算の文章問題では、図を正しく選んだり、式を誤ったりする誤答が多く、図を用いて数量の関係を考えることに課題が見られる。	・基礎的・基本的な計算の定着に向け、繰り返し練習を継続して定着を図る。また、習熟度別学習を生かして、かけ算とわり算の混じった式の計算など、発展的な問題を解決する力も身に付けていけるよう、個に応じた指導の充実を図る。 ・図を用いて考えたり説明したりする力を育むために、各学年の授業で、数量の関係を図で表す活動や図を読み取って式をつくる活動を積極的に取り入れる。
量と測定	平均正答率は市の平均をやや下回っている。 ○速さの単位の関係(分速と時速)を理解して、道のりとかかった時間から時速を求めることができた。 ●直方体を組み合わせた形の体積や直径が与えられた円の面積を求める問題では、正答率が低く課題が見られる。	・時速、分速、秒速の単位の関係をもう一度確認し、単位の換算まで正確にできるように練習し定着を図る。 ・図形の面積や体積の求め方については、それぞれの公式を確認し基本的な問題に取り組みせるとともに、複合図形を扱うなど、数学的な思考を伴う問題に取り組みせ、さらに力をのばしていく。
図形	平均正答率は、市の平均をやや上回っている。 ○合同な三角形の作図が大変よくできた。作図の方法を1つだけでなく、3つの方法を使って繰り返し練習した成果であると考えられる。 ●多角形の内角の和を求めたり、線対称な図形の対応する点を見つける問題では正答率が低く、課題が見られる。	・多角形の内角の和を求めたり、円の直径や半径から円周を求めたりする類似問題を繰り返し行い定着を図る。 ・対称な図形では、線対称な図形と点対称な図形の性質の違いや対応する頂点・辺などをもう一度確認し、作図も含め繰り返し練習し、定着を図る。
数量関係	平均正答率は、市の平均をやや上回っている。 ○割合の考え方を使って、基準量や比較量を求めることはよくできた。 ○比例の関係を式に表したり、反比例の関係を読み取ることはよくできた。 ●2つの文字を使った式では、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題では、正答率が低く、課題が見られた。	・割合や比の問題に関しては、問題の題意を正しく読み取り、数量の関係を図や数直線に表したりして考えるように指導し、数学的な思考力の向上を図る。 ・文字の式では、2つの数量の関係を文字の式に表したり、文字数を当てはめ値を求めたりするだけでなく、問題解決的な場面などの課題にも取り組ませたりして、文字を使った式のよさに気付かせるようにしていく。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	67.3	67.3	64.4
	生命・地球	84.3	81.3	80.3
観点別	科学的な思考・表現	75.6	75.3	72.6
	観察・実験の技能	81.6	74.4	73.5
	自然事象についての知識・理解	74.6	74.7	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均と同等であった。 ○ふりこのきまりについては市の平均を大きく上回っている。 ○「水よう液の性質」では実験での注意事項や、実験の結果から予想を検証して説明する力が市の平均を大きく上回っている。 ●電流のはたらきで電磁石の性質を理解した上で推察したり説明したりする力は市平均を下回っている。 ●物の燃え方や燃えるのに必要な気体を理解する問題の正答率が低い。	・課題に対する予想の根拠を明確にさせたり、実験結果を考察し課題に立ち返らせたりすることで、思考力や判断力を育てるようになる。 ・学習内容と日常の事象との関連について意図的に触れ、理解が深められるようにする。
生命・地球	平均正答率は市の平均を3ポイント上回っている。 ○「人のたんじょう」では受精卵などの用語が分かり、誕生までの成長の仕方をよく理解している。 ○月と太陽では月の位置関係や満ち欠けの周期をよく理解している。 ●動物のからだのつくりとはたらきでは臓器の名前や場所、働きについての理解が不十分であ	・生物についての関心が高いのだが、体のつくりや臓器の役割などの理解が不十分である。身近な事象との関連を意識できるように支援や助言を意図的に行う。 ・課題提示の仕方を工夫することで、観察したことや実験した結果からどんなことが分かるかを関連付けて考察できるようにする。

宇都宮市立横川西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な学力を向上させる工夫	定期的に漢字や計算のミニテストを実施し、今まで学習した内容を繰り返し行っている。算数では少人数指導やTT指導を行うことで、個に応じた指導の充実を図っている。また、児童が見通しをもって主体的に取り組むことができるように、学習展開を工夫している。	6年生は、国語の「言語についての知識・理解・技能」と算数の「数量や図形についての知識・理解」「数量や図形についての技能」ともに市の平均を上回った。国語の「書くこと」「読むこと」算数の「数学的な考え方」については、市の平均を下回った。
家庭学習の定着を図る工夫	3～6年では、家庭学習ノートを用いた自主学習に学年に応じた目標時間取り組んで、提出するよう指導している。また、学年に応じた「家庭学習の手引き」を配布し、家庭学習の習慣化を図れるよう、家庭にも協力を仰いでいる。	1～2年生は、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合は93%以上である。3～6年生では、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合は90%以上だが、自ら取り組む態度に関わる「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」は60%～80%と、学年によってばらつきが見られる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・4～6年生の算数では、国・県・市の調査ともに平均との差は大きくないものの、平均の学力に達していない児童が多いことがわかった。次年度は、「朝の学習」の時間に取り組む内容について系統立てて考え、基礎的・基本的な学力を向上させていきたい。
- ・国・市の調査ともに「家で宿題をしている」「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合は90%以上だが、自ら取り組む態度に関わる「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」は、学年によってばらつきが見られる。次年度は、児童が進んで自主学習に取り組めるよう、学習意欲を育てる授業展開の工夫に努める。